



宮司プレス 八十二号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十五年三月三十一日

◇宮司の柴田です。平成十八年六月より、毎月発行を続けている「彦島八幡宮 宮司ニユース 宮司プレス」も、今月号で八十二号を迎えました。今年になって、発行日が、大幅に遅れ、月末になってしまおうという事態（じたい）が、茶飯事（さはんじ）となりました。三か月も続いて、発行日のワースト記録を更新中であります。朝粥会を開催する毎月二十一日が、宮司プレスの発行、定着しつつありましたが、発行日に関しては、プレスはプレスでも、「エキस्प्रेस、特急」になるには程遠（ほどとお）いようであります。しかしながら、弁解ではありませんが、六年と十ヶ月継続していることに免じて、お許しください。ようやく、お届けできます。◇境内西側の桜並木（さくらなみき）、裏参道の石垣の桜、正面参道両脇の一对の桜、神池（しんいけ）の桜、今が盛りと咲きにおつています。今月の二十六日（火）に、当宮の敬神婦人会（けいしんぶじんかい）の役員会を開催し、会議終了後、境内西側の桜並木の下で花見をしました。花見は、古（いに

しえ）は、山に登って山桜花（やまざくらばな）をめめました。その年の花の盛（さか）り具合をかなでつつ、秋の「稔（みのり）」のある収穫を占い、さらに、咲く花にあやかれるよう祈る行事でした。今のように、平地で花見ができるようになったのは、江戸時代の後半からです。

「敷島（しきしま）の 大和心（やまとこころ）を 人間（と）はば 朝日（あさひ）にほふ 山桜花（やまざくらばな）」

これは、江戸時代の国学者である本居宣長（もとおり のりなが）の和歌です。「敷島」とは、日本の国のことですが、日本人の心は、咲きはこる桜の花のように、美しく尊（とうと）いものであると、うたわれています。伊勢の神宮さんの神職によって唱（とな）えられたてられた神道【難（むずか）しく申し上げると、「唱導（しようどう）神道」とよびますが】を、「伊勢神道（いせしんとう）」といえます。鎌倉末期から室町時代が、「前期伊勢神道」、江戸時代初期から中期にかけてを「後期伊勢神道」と別けられます。

なかでも、「後期伊勢神道」の「度会延佳（わたらい のぶよし）」は、「人間は神から神性（しんせい）を受けて生まれた存在だから人間の本性（ほんしょう）を損（そこ）なうことをしてはいけない。誰もが、神から賜（たまわ）った本性（ほんしょう）を基準とした生き方をせよ」と説（と）いています。実は、私どもは、神様から美しい体と心を頂いています。この「本性（ほんしょう）」とは、神様の心、明き清き誠の心、その心で日々生活することの大切さを説いているのだと解釈（かいしゃく）しています。桜の花が美しいのは、言うまでもないことですが、大変美しい世相（せそう）、世知辛（せちがら）くなつた浮世（うきよ）での生活のなかでも、「美しい」と思える、その心が美しく尊（とうと）いのですよ。「本性」が損なわれない証拠（しょうこ）ですよ。大切にしなければならぬのは、何気ない、当たり前前の日常ではないでしょうか。

◇桜の花もいずれば散ります、惜しまれながら、散り際（ぎわ）も見事に、時を得てですね。満月の月も、いずれば、欠けます。しかし、「風姿花伝書（ふうしかでんしょ）」には、「去年（こぞ）、盛りあれば 今年（ことし）は 花なかるべきことを知るべし」と書かれています。月もい

ずれまた、満月になるのですが、我々の命は、限りがあります。あの東日本大震災から二年が経ちましたが、今、生かされている我々は、大自然の脅威(きょうい)、とてつもない脅威でありながら、生かされる恵みの泉でもある事を思い知らされています。京都大学の佐伯教授は、『人はいずれにせよ、自然のなかで自然とともに生きるほかないのである。この自然を前提にして、人々が「共に生きる」社会の形も組み立てられてくる。』と述べられています。「絆(きずな)」ということばが、とつてつけたような流行語になつてはいけません。

◇伊勢神道についてふれましたが、今年、伊勢の神宮さんの「第六十二回式年遷宮(しきねんせんぐう)」が行われます。式年遷宮は、御正殿(ごしょうでん)をはじめすべての社(やしろ)のお建て替え、大造営(だいぞうえい)の壮大な行事です。千三百年以上の歴史の大半において、正確に二十年ごとに古式にのっとり行われてきたのです。い時代ばかりではなく、戦乱や自然災害もあったのです。二十一年に一回のペースを守り続けたパワー、連続性、まさしく日本民族独特の日本文化の神髄(しんずい)です。そして、東日本大震災を乗り越えて、第六十二回の遷宮が行われるところに、大きな意義が

あると思います。過去においても未来においても、皇室を中心にした運命共同体であり、神とともに「再生」「よみがえり」「更新」を繰り返すという思い、「日本人の本性」ではないでしょうか。日本人が一つとなつて行われてきた、「式年遷宮(しきねんせんぐう)」こそ、「自然とともに生きる社会の形」、「日本人の絆」のような気がします。御自愛をお祈りします。

◇三月の祭典行事報告

▼月次祭 *三月一日、十五日

▼岡田神社正式参拝 *三月八日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 *三月十日

▼恵比寿神社例祭 *三月十五日

▼維蘇志会設立二十周年奉告祭

*三月十五日

▼祖霊祭 *三月二十日

▼朝粥会 *三月二十一日

◇四月の祭典行事予定

▼月次祭 *四月一日、十五日

▼竹の子島金刀比羅宮例祭

*四月六日〜七日

▼荒神社例祭 *四月九日

▼彦島地区戦没者慰霊祭 *四月二十一日

▼朝粥会 *四月二十一日

▼昭和祭 *四月二十九日

◇三月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会役員会 *三月七日

◇奉納ゴルフ会役員会*三月十六日

◇神道会第二十二回定例総会 *三月二十日

◇敬神婦人会役員会 *三月二十六日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇大歳神社森宮司就任祝賀会

*三月二日

◇神宮大麻増頒布推進委員会 *三月八日

◇庁臨時役員会、野村庁長特級昇級祝賀会

*三月十一日

◇臨時協議委員会 *三月二十二日

◇下関支部総代敬婦合同役員会 *三月二十五日

◇下関支部研修 *三月二十五日

◇下関支部三役会 *三月三十日

◇下関支部事務局長引継 *三月三十一日

▼教誨活動 *美祢社会復帰促進センター

◇集合教誨

*三月十一日(男子)、二十五日(女子)

▼人権擁護委員活動

◇研修 *三月一日

▼迫町自治会

◇役員会 *三月十三日

◇組合長会議 *三月二十三日

▼講演活動

◇大美支部研修会「神社神道史概説」

*三月十九日